

特 42
456

訂正
觀世音菩薩
外
經
卷
第
一
卷

出
世
經
卷
第
一
卷
42

去 珠

葵

信乃雲行家トかく内々

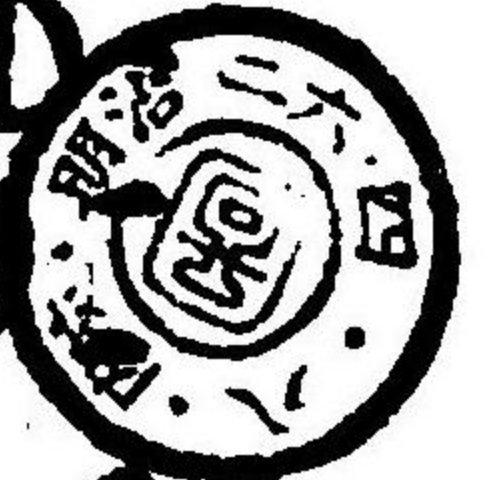
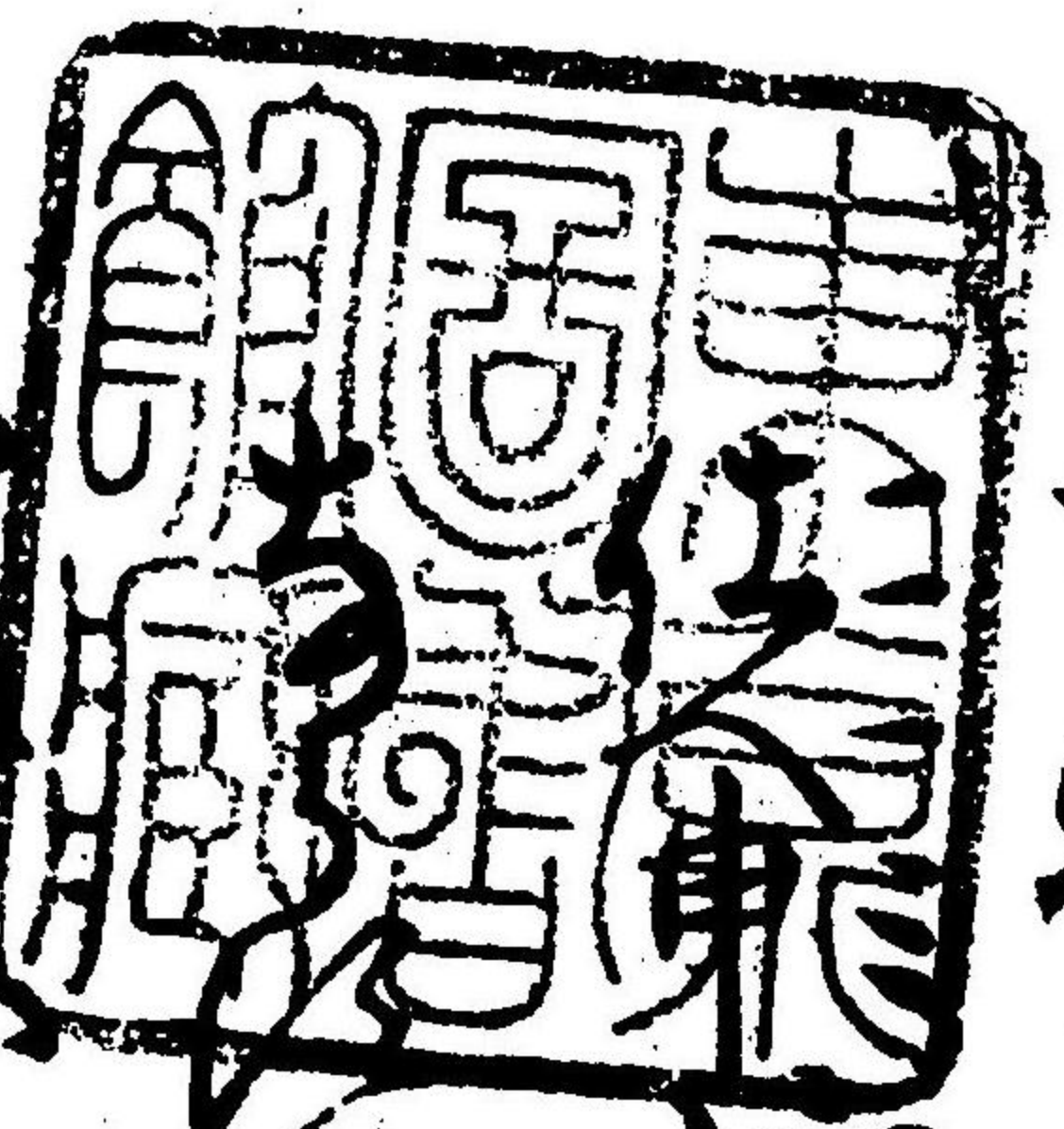
ちを素心サレ是ハ頼光ハ所内子

小蝶ト下ト共ト心トくト梅ト頼光ハ

懐トまトせト信ト子トまトるト去ト典ト樂トハトま

具ト素ト持トハト今ト頼ト光トハト出ト所トハトあり

乃トハト知トルト出ト入トハト知トルト出ト入トハトあり



毒

典薬の及つて葉と持ての蝶のし

平なる由は入るなる百機急

と云ふ一ト云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

申す典薬の及つて所某以

物ぐの蝶のしと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

典薬の及つて所某以

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

女書
 いやくうれきかしの痛なき
 うれきあひまきり療治よ
 早くあひまきり療治よ
 の中に ^養 思ひまきり核口に
 養とあひまきり療治よ
 うれきあひまきり療治よ
 養とあひまきり療治よ
 うれきあひまきり療治よ
 養とあひまきり療治よ

そろあひまきり療治よ
 しむらあひまきり療治よ
 月清は夜まきり療治よ
 養とあひまきり療治よ
 うれきあひまきり療治よ
 養とあひまきり療治よ
 うれきあひまきり療治よ
 養とあひまきり療治よ
 うれきあひまきり療治よ
 養とあひまきり療治よ
 うれきあひまきり療治よ
 養とあひまきり療治よ

おや三好のそわせころを自註い
 膏あうちうの乃 お丸 蜘蛛振落か
 移くようきるぬとよま程ゆ
 姿ハ蜘蛛乃あくわたり お丸 蜘蛛
 子助のきあふ お丸 五線とけり お丸 糸を
 昔し お丸 記 お丸 記 お丸 記 お丸 記
 生 お丸 生 お丸 生 お丸 生 お丸 生
 生 お丸 生 お丸 生 お丸 生 お丸 生

撥し お丸 撥し お丸 撥し お丸 撥し お丸 撥し
 可 お丸 可 お丸 可 お丸 可 お丸 可
 蕪 お丸 蕪 お丸 蕪 お丸 蕪 お丸 蕪
 悪 お丸 悪 お丸 悪 お丸 悪 お丸 悪
 御 お丸 御 お丸 御 お丸 御 お丸 御
 ぐ お丸 ぐ お丸 ぐ お丸 ぐ お丸 ぐ
 ち お丸 ち お丸 ち お丸 ち お丸 ち

まゝに人語つてはまゝに傳あそび
おぼつたつたの家のたをきくの僧歌
の多う。我の心はよく行者成ると
尋へて我をいふ人其者あつたはた
の熱いからまじく接しきりもあつた
古寺よしのなまゝあつたつたつたの
熱いまゝに我の子助の多うなり

うきうきと抱きあつて膝あつてあつた
あつたあつたの者もまじくあつた
うきうきと抱きあつて膝あつてあつた
のうきうきと抱きあつて膝あつてあつた
熱切ると分たつたあつたあつたあつた
うきうきと抱きあつて膝あつてあつた
言語首断今
あつたあつたあつたあつたあつた

ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん

ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん

たつたての心もいかに大魂の心も
古塚の心もいかに若向の心も魂
神の心もいかに顯きたる心も
我もいかに心もいかに心も
精魂もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も

心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も
心もいかに心もいかに心も

彼去物之中、
御覽多し、
に切なき、
都念、

右之本者觀世大夫織部以章句
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都三條通御幸町西江八町
山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

板權 所有

發行所 京都市上京區三條通御幸町西
檜常之助



